

第15回国立大学法人信州大学経営協議会議事要録(案)

日 時 平成19年6月28日(木)13時40分～16時30分

場 所 信州大学 本部管理棟5階 第一会議室

出席者 小宮山学長, 内田, 坂本, 鹽野, 茅野, 菅谷, 安川, 藤沢, 白井, 勝山, 須田 各委員

オブザーバー 橋本, 大島 各副学長, 梶谷, 堀井 各監事

欠席者 大崎, 大和田, 野村 各委員

第14回議事要録確認

議長から, 前回議事要録(案)について諮り, 確認された。

議 題

1 平成18事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

橋本副学長から, 資料 1に基づき, 報告書(案)の内容について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認された。

続いて, 橋本副学長から, 明日の提出期限までの間に見直した結果で若干の必要な訂正は一任願いたい旨の説明があり, 了承された。

学外委員から, 次の意見があった。

文部科学大臣がどう読むかという視点で見ると, 非常によいと思う。

「教養教育」「環境問題」「地域貢献」でよくやっていることが評価できるし, きちんと立証されるとモデルになる。

2 大学機関別認証評価自己評価書について

橋本副学長から, 資料 2 - 1及び 2 - 2に基づき, 「機関別認証評価」及び「選択的評価事項に係る評価」の各評価書(案)の内容について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認された。

続いて, 橋本副学長から, 明日の提出期限までの間に見直した結果で若干の必要な訂正は一任願いたい旨の説明があり, 了承された。

学外委員から, 次の意見があった。

全部が改善点なしというのは, 何も考えてない, 主張するものがないと捉えられる恐れがある。文科省側の観点や社会の精神に則ってやっているということを入れたほうがよい。

研究, 学問には, 旬の時期があるということを得ながら, 総合大学としてリーダーシップを持ってやっていただきたい。

大学の価値観でよくやったと自己評価をしても, 違う価値観で見れば, だめだということがありうるし, 評価するほうが同じ立場にならないと, 自己評価がそのまま素直に受け入れられないということもあるのではないか。

これに掛かるコストは大変だと思うが, 立派な内容で本当によくやられたと思う。

この自己評価, 個人のミクロの評価でも, 学問分野の性格に充分注意していただきたい。

研究・教育の成果を自己評価する, それが原点で, 自分は何をやってきたか, 今後何をやりたいかを, 自ら明らかにすることが大事で, 世間に明らかにするというにも留意いただきたい。

3 平成18年度決算について

藤沢理事から, 資料 No. 3に基づき, 第3期事業年度財務諸表(案), 附属明細書(案), 事業報告書(案)及び決算報告書(案)について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認された。

学外委員から, 次の意見があった。

全般的に見ると, 企業で言えば優良企業だ。

キャッシュフローでも大変健全でよい決算で安心した。

病院経営, 企業経営は, 積極的に儲けるような時代ではない。

医療について国が困っている問題を, 実務部隊として責任を果たすということをお願いしたい。

人の命にかかる医療とか, 食料とか, ライフラインに直結するようなものは, 市場原理ではない。

病院の経営でいうと, 病院間では, やはり優劣があり, おかしいとなれば100病院のうち30

だけは潰すということがあるが、真ん中以上であれば大丈夫だ。命を預かるシステムは、絶対に守られるし、国民が守るものだ。

4 平成20年度概算要求事項について

藤沢理事から、資料 No. 4に基づき、文部科学省に対する現段階の要求事項の内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

学外委員から、次の内容の意見があった。

学際融合領域という見方が重要だということが、認識されてきている。

信州大学であれば、国立大学病院として、全地域のいろいろなところから患者が来ている。

ただの医療ではなく、「健康で自分で生きる」ということを県・市と一緒にやると、拠点というものを認定するような場合は有利になるということも念頭においてお願いしたい。

5 長期ビジョンについて

議長から、前回までの意見等を踏まえて関係者で検討しているところで、更に継続して検討することとしている旨の説明があり、続いて、白井理事から、資料 No. 5 - 1 ~ No. 5 - 3に基づき、信州大学の長期展望『ビジョン'15』(資料 No.5-1),『ビジョン'15』-“オンリーワンの魅力をもつ地域拠点大学の雄”を目指して-(資料 No.5-2),ビジョン'15(案)-“オンリーワンの魅力をもつ地域拠点大学の雄”を目指して-(資料 No.5-3)について説明があった。

学外委員から、次の内容の意見があった。

資料の長期展望「ビジョン'15」を見て、実学の大学という印象を受けた。

大学の研究者には、役に立たないこともやってもらう必要があるのではないか。

当面は人が見向きもしない法則のようなものを作るとか、源氏物語の研究を新しい視点からやるとしたら、どこに入るのだろうかという気がして、書いてあることは賛成だが、少し寂しいなと思う。

「いい教育をする」、「地域に根ざした」、「世界に冠たる」、「オンリーワン」、「研究拠点の形成」は大切ではあるが、研究者が、独自にしたいことを一生懸命できる環境とか、そういうシステムとか組織とかがある大学ということが必要ではないか。

地域にも関係なく、世界に羽ばたけるかどうかも分からないけれども、こつこつやる研究者にもチャンスを与えて、その人がいることによって、それに魅せられた後継者がそこへ集まってくるというような、研究者を大事にするという風潮が、一般的には無いと思うので、「信州大学は、研究者を大事にして、本当の研究ができる大学だ」との名声を得るような大学を目指すことも必要ではないかと思う。

大学は、学問があつてなにがしということだが、やはり歴史研究が非常に重要な核になる。

信州大学が、今までできたのは、旧制松高とか、長野師範とか、地域に根ざした普遍的なことをやってきた基礎があつたと思う。

先端科学の発展もあるが、その基礎があつてこそ大学があると思っているし、大学はそういうものなのだと思う。

どこかの大学では、科研費を応募しなかった研究者には、一種の制裁を加えるというようなことを新聞で読んだが、人文系ではお金はなくても充分研究はできるし論文も書ける。

科研費申請を採択された教員が、学問的に優れているかということ決してそうは思わないし、自己の研究という、少し別の次元の公益のためには、科研費がどうこうということではなく、研究環境を十分に整えるということが大事なことではないかと思う。

信州大学は、アカデミックに何に拠点を置くかということ、真剣に考えてもらいたい。

知の拠点として、大学を頼って生きていくという意味の主は何かということ、科学技術というものの基本と連携して、全部意識して考えていただきたいということであり、社会の悩みを予防し、解決するのが学問という基点の下に選んでいただきたい。

我が大学は、こういう理念できちんとやっているということ、これを主張すればよい。

報告事項

1 次期学長候補者について

学長選考会議議長の鹽野委員から、意向投票実施後に開催した学長選考会議において、候補者である現学長を次期候補者として選考した経緯について報告があった。

2 平成18年度監事監査結果報告書について

梶谷監事から、資料 6に基づき、監査結果の概略報告があった。

3 平成19年度会計監査人について

藤沢理事から、資料 7に基づき、今年度の会計監査人として選定した「みずほ監査法人」が業務停止したことから、改めて監査人を選定し直した結果、「新日本監査法人」を選定したことの経緯について報告があった。

4 競争的資金の採択状況について

白井理事から、資料 8に基づき、本法人から申請したプログラムの採択の現状及び今後の見込みに関して報告があり、議長から、採択結果に関する本法人の現状説明と関係者への謝辞があった。

学外委員から、配付資料(表題「グローバルCOEプログラムに関する所感」)に基づき、国全体の募集及び採択の現状分析と今後の政府の見通しに関して詳細な説明があった。

5 信州大学環境報告書2007について

環境施設部長から、資料 9に基づき、このたび刊行した今年度報告書の掲載内容について報告があった。

6 信州大学生生活協同組合等との契約形態の見直しについて

藤沢理事及び財務課長から、資料 10に基づき、法人化後に新たに課税対象となった貸付資産への松本市からの課税通知対応の経緯と現状に関して報告があった。

7 その他

(1) 次回の開催について

議長から、次回は11月頃に開催する旨の説明があった。

以上